

平成29年度第2回多賀町立図書館協議会報告

日 時 平成30年3月8日（木） 午後2時55分～5時10分
出席委員 火口委員、野澤委員、成宮委員、有元委員、小林委員、夏原委員
欠席委員 高浪委員、宮野委員、曾我委員
事務局出席者 山中教育長、小北館長、建部係長、勝間係長

1. あいさつ

火口会長
山中教育長

定足数の確認

説明者：勝間

出席者6名で過半数を超過し会議成立

2. 報告事項

(1) 空調機機能強化工事および照明取替工事について

説明者：勝間係長、工事施工業者

<委員とともに現地確認>

図書館開架室・閉架書庫等のLED照明および空調機器を視認

(2) 図書館協議会交流会参加報告

説明者：勝間係長、野澤副会長

第1部 野洲市立図書館協議会（早川会長）の報告内容

長浜市立図書館協議会（美濃部副会長）の報告内容

第2部 意見交換会の内容報告

主な質疑・意見等

○図書館が教育委員会の所管から離れることのデメリットは。

→例えば、学校図書館と公立図書館の連携が薄くなってしまう。また教育の一環としての図書館機能から外れてしまい、本の提供だけになってしまう恐れもある。平成27年社会教育調査によると、全国3308館の公立図書館のう

ち、首長部局が所管する図書館は全部で136館、内訳は4県、126市、6町。

(3) 先進地視察研修参加報告

説明者：勝間係長、野澤副会長

奈良県三郷町立図書館の現況

平成26年に新築移転開館した生駒市立図書館（生駒駅前図書室木田文庫）の現況・取組

主な質疑・意見等

- 自働貸出機は滋賀県内にも設置があるのか。バーコードでなく、ICチップで管理なのか。
→滋賀県内には現在設置なし。これから新館建設される守山市・長浜市では検討されている。新しく買う図書は、ICチップが装備されて納品されるが、既存の蔵書については、1つずつ作業をする必要がある。ICチップだと蔵書点検の負担が軽くなる。バーコードのように1つずつ読み込まずに、1度に大量の処理ができる。

(4) 平成29年度多賀町立図書館事業計画実施報告

説明者：小北館長

1月末の数値で報告。

主な質疑・意見等

- 主催事業4回の内容は。
→おわけ会3回と開館記念日事業「にんぎょうげき」1回の計4回。
- 多くの人が集まったイベントがあったと思うが、それは。
→事業の協働開催に計上している。
- イベントに参加した方の図書館利用はどうか。
→正確な数値は出ないが、早めに来館し図書館を利用する方や、家族がイベント参加中に図書館で待っておられる方は見受けられる。
- 今年度は、テレビに出ているねんどろひとみせんせいを講師に招いたので、多賀町内からの参加者が多かったが、いつものイベントでは、多賀町外の方がほとんどなので、直接的な図書館の利用にはつながっていないはず。
- 中高生への具体的な方策は。
→検討はしているが、これといった方策が見えず八方ふさがり。土曜講座の開場があけぼのパークのため、土曜午前に来館する中学生もいるのだが、講座の

後に図書館で本を借りる姿は見られない。

- 小学校で、絵本から童話等に上手に移行できた子とできなかった子で、本離れしていく、していかないの差が大きい。
- サークル「このゆびとまれ」さんは、本好きな子どもを育むために、いろいろな仕掛けをしていただいていると思うが、どうか。
- イベントでは、工作をすると申し込みが早い。作家さんの講演会だと、お母さんを含め、なかなか来られない。
- スマートフォンやタブレット等の電子機器の弊害も大きいと思う。
- 子どものころには、スマートフォン等の電子機器もテレビもなかった。娯楽はラジオか本ぐらいしかなかったので、本を読んでいた。現代は、ゲーム等、身近に娯楽がある。
- 本というのは、自分の頭の中でイメージーションを組み立てるものなので、ずっと奥行きもあり、楽しいと思う。
- 本を読むきっかけづくりが、現代では難しいのかと感じる。

(5) 平成30年度図書館費予算について

説明者：勝間係長

図書館費は29年度と比較し約5%増額されているが、職員給与費の増額である。移動図書館車経費は、車検整備が終わったために減額。

図書館電算処理経費は、貸出等のシステムの更新が認められず、再リースで対応するために減額。

資料購入費は、人口1人当たり約645円で前年比約10円のマイナス

主な質疑・意見等

- システム更新がなされないデメリットはあるのか。
→ソフト的には大きな問題はないが、ハードの保守が切れるため、機器が故障すれば、修繕費が必要になってくる。またOSがウインドウズ7である。
- 図書購入費が減ってきているということだが、新聞雑誌購入費もなのか。
→減ってきている。雑誌スポンサーがついていることを理由に削減された。図書館としては、スポンサーを募って雑誌の数を増やそうとしているが。
- 役場としてはスポンサーが付けばそちらを当てにしないといけないが、本来であれば、公的な予算を投入すべき。新聞雑誌購入費を含む需用費は、一番予算が削られやすい。

(6) 平成30年度事業計画について

説明者：勝間係長

事業概要は平成29年度同様

10月に開館20年を迎えるため、事業予定

ただし、平成31年度移動図書館の巡回終了に向けて検討に入る

主な質疑・意見等

○開館20周年事業の予算要求はしたのか。

→読書通帳の配布を企画し予算要求したが、全額カットされた。講師報償費は今年度同額が予算化されている。

○図書購入費が少しずつ減額されていくと、結局、新しい本が入らない。利用者にとっては、来館しても変わりばえのしない本しかないから行かないという悪循環が定着してしまいそうで危惧する。なぜ、毎年、図書購入費を減額し続けるのか説明がほしい。

→図書館費の予算の中で、人件費、図書購入費、雑誌購入費が目立って大きい金額になるので、財政係としては少ない金額を少しカットするよりも、大きい金額のところを少しずつ減らしているようだ。

3. その他

○駐車場入りロスロープの左のほうが、陥没している。

→以前一度直したが、また現状のように沈んできてしまっている。予算をつけて考えていかないといけない。